

安全データシート

JIS Z 7253：2019 に準拠

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	AV PP パイプ：切削屑
S D S 番号	No.D-011
供給者の会社名称	旭有機材株式会社
住所	〒882-8688 宮崎県延岡市中の瀬町2丁目5955番地
電話番号	0982-35-9380 (管材システム事業部 環境安全・CS品質部 CS品質課)
F A X 番号	0982-35-9358 (管材システム事業部 環境安全・CS品質部 CS品質課)
緊急連絡電話番号	0982-35-9380
推奨用途及び使用上の制限	薬品、排水、温泉、給湯及び超純水等の液体輸送用配管（パイプ）

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類	
物理的危険性	本製品は成形品のため分類対象外
健康有害性	該当しない GHS分類結果が「区分に該当しない」、「分類できない」の項目は記載していない。
絵表示（GHS JP）	—
注意喚起語（GHS JP）	—
危険有害性情報（GHS JP）	情報なし
注意書き（GHS JP 切削屑） 安全対策	P260：粉塵を吸入しないこと。 P264：取扱い後はよく手を洗うこと。 P270：この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P273：環境への放出を避けること。 P281：指定された個人用保護具を使用すること。
救急措置	P304+P340：吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 P308+P313：暴露又は暴露の懸念がある場合、医師の診察／手当てを受けること
保管	P401：切削屑の漏洩がないように対策を講じ、保管すること。
廃棄	P501：内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
重要な徴候及び想定される非常事態の概要	—

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物の固体
一般名	PP パイプ

成分	化学式又は構造式	含有量 (重量%)	CAS 番号	化審法	労働安全衛生法 (通知対象物質)
エチレン・プロピレン重合体	(C ₃ H ₆ ・C ₂ H ₄) _x	91～95	9010-79-1	(6)-10	該当なし
ブテン・エチレン重合体	(C ₄ H ₈ ・C ₂ H ₄) _x	3～7	25087-34-7	(6)-18	該当なし
添加剤	—	1～3	非開示	非開示	該当なし
着色剤	—	0.3～0.5	非開示	非開示	該当なし

安全データシート

JIS Z 7253：2019 に準拠

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合（切削屑）

新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師に連絡し、必要に応じて手当てを受ける。

皮膚に付着した場合（切削屑）

速やかに取り除く。
違和感がある場合は医師に連絡し、必要に応じて手当てを受ける。

眼に入った場合（切削屑）

水で数分間注意深く洗う。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
違和感がある場合は医師に連絡し、必要に応じて医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合（切削屑）

粉体を多量に飲み込んだ場合には、水で口をすすぎ医師の手当てを受ける。
無理に吐かせない。

最も重要な徴候症状

特になし

応急措置をする者の保護

粉体の場合には、救助者は、保護手袋、保護眼鏡などの保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

特になし

5. 火災時の措置

適切な消火剤

大火災では、水噴霧・アルコールタイプまたは汎用タイプの泡消火剤をメーカーの推奨する方法で使用する。小火災では水噴霧・二酸化炭素または粉末消火剤を使用する。

使ってはならない消火剤

強い水流は使用しない。

特有の消火方法

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入を禁止する。
可能であれば火元より離れ、風上より消火する。
水は冷却効果が有り、消火には有効であるが、熔融した樹脂にホース等で直接かけると、熔融樹脂が飛び散り、火災が広がるおそれがあるので注意が必要である。

消火活動を行う者の保護具

消火作業の際は、適切な防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

保護具

パイプ切断により粉塵が発生する場合、作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。環境中に排出してはならない。

封じ込め及び浄化方法及び機材

封じ込め方法

パイプ切断により粉塵が発生する場合、掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。
真空で吸い取る等、粉塵が飛散しない方法で取り除く。

二次災害の防止

パイプ切断により粉塵が発生する場合、床面に残ると滑る危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い（切削屑）

技術的対策

『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用

安全データシート

JIS Z 7253：2019 に準拠

する。

『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

みだりに粉塵が発生しないように取扱う。
粉塵を吸い込まないようにする。（切削屑）。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
排気用の換気を行うこと（パイプ切断により粉塵が発生する場合）。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
環境への放出を避けること（パイプ切断による粉塵発生時）。

接触回避

切削屑が発生する時には、装置・機器等は静電気対策を実施する。
『10. 安定性及び反応性』を参照。

衛生対策

切削屑が発生する時には、飲食又は喫煙をしないこと。
休憩場所には、洗身シャワー、手洗い、洗眼等の設備を設けること。
製品取扱い後には必ず手、顔等をよく洗い、うがいをする。

保管（切削屑）

技術的対策

直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管し、火気を避けること。

安全な保管条件

特に技術的対策は必要としない。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度

本製品に於いて設定されていない

許容濃度

ポリプロピレンは確立された暴露限界濃度の定めはないが、ポリプロピレン粉塵を有害粒子として取扱い、吸入を避けることが妥当と考えられる。

設備対策

本製品を貯蔵ないし取り扱う作業には洗眼器と安全シャワーを設置したほうがよい。（切断により粉塵が発生する場合）

取扱いについては全体換気装置を設置した場所で行う。（切断により粉塵が発生する場合）

保護具

呼吸用保護具

必要に応じて個人用呼吸器保護具、防塵マスク等を使用する。

手の保護具

必要に応じて個人用保護手袋を使用する。

眼の保護具

必要に応じて個人用の眼の保護具、保護ゴーグル等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用する。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗う。

特別な注意事項

特になし

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

形状

固体（パイプ）（切断時に切削屑、粉塵が発生する）

色

ベージュ色

臭い

ほぼ無臭

pH

データなし

融点

160℃以上

比重（密度）

0.89～0.92 (20℃)

可燃性

あり（消防法の指定可燃物）

引火点

データなし

安全データシート

JIS Z 7253：2019 に準拠

自然発火点	300～440℃ ※形状、測定法により異なる
分解温度	データなし
溶解度（溶解性）	水には不溶。
蒸気圧	データなし
相対ガス密度	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の手扱いにおいては安定である。
化学的安定性	通常の手扱いにおいては安定である
危険有害性反応可能性	水との反応性、自己反応性、爆発性はなし
避けるべき条件	情報なし
混触危険物質	火気に近づけない
危険有害な分解生成物	燃焼すると CO、CO ₂ 、炭化水素及び酸化物等の有害ガスを発生する。

11. 有害性情報

一般的な環境下では固体の管であり、有害性を示す事例はない。
ただし、配管施工時に発生する切削屑及び破片の場合、下記の項目が該当する。

急性毒性(経口)	データ不足のため分類できない
急性毒性(経皮)	データ不足のため分類できない
急性毒性(吸入)	データ不足のため分類できない
皮膚腐食性／刺激性	データ不足のため分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	乾燥時、熔融時に発生するガス・ヒュームは刺激性がある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データ不足のため分類できない
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない
発がん性	人に対する発がん性については分類できない
生殖毒性	データ不足のため分類できない
特定標的臓器毒性（単回暴露）	データ不足のため分類できない
特定標的臓器毒性（反復暴露）	データ不足のため分類できない
誤えん有害性	データ不足のため分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	一般的な環境下では容易に分解しない。
生態蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	データ不足のため分類できない
その他	海洋生物、鳥類が摂取することを防止するため、いかなる海洋や水域でも投機、放出してはならない。 廃棄の際には、『13. 廃棄上の注意』の記載に従うこと。

安全データシート

JIS Z 7253：2019 に準拠

13. 廃棄上の注意

リサイクル可能な管

環境に配慮し、リサイクルすることが可能な場合は、リサイクル処理業者に処理を依頼する。

残余廃棄物

リサイクルが出来ない管においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者には危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。

本製品は廃プラスチック類に分類される（安定型産業廃棄物）。

汚染容器及び包装（切削屑）

非該当

14. 輸送上の注意

国際規制

海洋汚染物質

規制なし

特別な輸送上の注意

規制なし

国内規制

陸上規制情報

規制なし

海上規制情報

規制なし

航空規制情報

規制なし

輸送又は輸送手段に関する安全対策

『7. 取扱い及び保管上の注意』の記載に従うこと。

15. 適用法令（切削屑）

労働安全衛生法

適用しない

化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）

適用しない

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物（廃棄物として処理する場合の分類）

毒物及び劇物取締法

適用しない

消防法

指定可燃物（合成樹脂類 3,000kg）
（消防法第九条の四、危険物の規制に関する政令第一条の十二別表第四）

外国為替及び外国貿易法

適用しない

船舶安全法

適用しない

航空法

適用しない

港則法

適用しない

その他

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

16. その他の情報

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱を確保する為の参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。

したがって本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

また、この情報は新しい知見に基づき、改訂されることがあります。

記載内容の内、含有量、物理／化学的性質等の情報は保証値ではありません。

危険・有害性の評価は、現時点で入手出来る資料・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありません。

以前にお渡しした本製品の製品安全データシートをお持ちの方は、破棄してください。

法改正や製品の改良により SDS を改訂する場合がありますので、作成・改訂日が2年以上たっている場合は、最新版

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

であるかどうかご確認ください。

SDS の伝達の経路：安全データシート（SDS）は原則として次の経路で最終取扱い事業者様へ伝達されます。

恐れ入りますが、未入手の場合の SDS のご請求や最新版のお問い合わせは、販売ルートを通じてお申し出ください。

【メーカー→代理店→取扱い事業者】

免責条項

当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとに作成していますが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではありません。

製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、当社の認知するところではありませんので、製品[斎藤1]の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負いかねます。

当該シートは本製品にのみ使用して下さい。